

舗装工学講演会講演集原稿 投稿要項

(2023 年 4 月 14 日改訂版)

舗装工学委員会

1. 投稿者

(1) 投稿資格

投稿者は土木学会会員、非会員を問いません。

(2) 注意事項

土木学会は主として個人の資格で参加している会員で構成された団体であることに鑑み、原稿は著者個人の名で提出してください。共同著作された原稿の著作権は、著作がなされた時点で氏名が掲げられた複数の著者に共有されます。

著者名の表示変更（著者の順番や **corresponding author** の変更を含む）は認められません。したがって投稿後に著者表示に関わる変更があった場合には、原稿は著者取り下げさせていただきます。

(3) 発表

投稿した原稿は、原則として筆頭著者が舗装工学講演会で発表してください。

2. 原稿提出先

原稿の PDF ファイルを投稿確認および著作権譲渡書（以降、確認シート）と併せて、舗装工学論文集編集小委員会のウェブサイト内の指示に従って提出してください。なお、原稿の提出は **corresponding author** が行い、**corresponding author** は原稿が審査を経て最終的に掲載されるまで、責任を持って対応してください。

3. 原稿提出期限

別途、舗装工学論文集編集小委員会ウェブページに掲載する舗装工学講演会の講演原稿募集案内に記載します。提出期限を過ぎた原稿は一切受け付けません。

4. 投稿原稿

著者は土木学会倫理規定（土木技術者の倫理規定）を遵守し、以下と併せて別途定める土木学会論文集の倫理基準に従って原稿を作成しなくてはなりません。倫理基準は土木学会論文集編集委員会のウェブページ（https://committees.jsce.or.jp/jjsce/j_post）にて確認してください。

4.1 募集課題

舗装に関する理論的または実証的な研究・技術成果のみならず、調査、計画、設計、施工、現場計測などの報告についても幅広く募集いたします。ただし、対象範囲を逸脱していると判断された原稿は、登載および講演不可とさせていただきます。募集する課題は、次のとおりです。

- ・ 舗装史・文化、人材育成・技術伝承、環境にやさしい舗装、災害に強い舗装・災害復旧、舗装材料、セメント系舗装、特殊舗装、橋面舗装、点検・調査・計測、性能評価（材料・構造・路面）、路床・路盤、施策・規格、アセットマネジメント・維持修繕、地盤補強・ジオシンセティックス、ICT・AI・データサイエンス、工法・機械・設備、現場実践・事例報告・問題提起、その他

4.2 投稿原稿の具備すべき条件

投稿原稿の具備すべき条件として考えられるのは、

- 1) 正確であること
- 2) 客観的に記述されていること
- 3) 内容、記述について十分な推敲がなされていること
- 4) 他の論文集、他学協会誌、商業誌へ二重に投稿していないこと
- 5) 舗装工学講演会講演集が発刊される時点において、他の論文集、他学協会誌、商業誌に未発表であること。

の 5 点が挙げられます。特に 5) に関して、既に発表した内容を含む原稿でも、次のいずれかの項目に該当する場合は投稿を受付けます。

- i) 50%以上の新たな知見が加味され再構成されたもの。
- ii) 限られた読者にしか配布されない刊行物、資料に発表された内容をもとに、再構成されたもの。
- iii) 個々の内容については既に発表されているが、統合することにより価値のある原稿となっているもの。

個々の原稿がこれらに該当するか否かの判定は舗装工学論文集編集小委員会で行います。この判定を容易にし、また正確を期すため、投稿にあたっては、既発表の内容を含む場合、あるいは関連した内容の場合には、これまでどの部分を、どの程度、どの刊行物に発表してあるかを原稿中に明確に記述してください。

なお、一つの原稿は、それだけで独立し、完結したものでなければならず、非常に量の多い内容を連載形式で掲載することはできません。

4.3 原稿のまとめ方

原稿は次のようにまとめてください。

- 1) 目的を明示するとともに、重点がどこにあるかが容易にわかるように記述してください。
- 2) 既往の研究・技術との関連を明らかにしてください。すなわち、従来の研究・技術のどの部分を発展させたのか、どの様な点がユニークなのかを示してください。
- 3) 原稿は要点をよくしぼり、簡潔に記述してください。例えば、次のような順序で記述するとよいと考えられます。
 - i) 目的
 - ii) 方法
 - iii) 結果と考察
 - iv) 結論

4.4 タイトル、要旨、キーワードおよび E-mail アドレス

- 1) 原稿のタイトルは簡潔で、その内容を十分に明らかに表現するものとしてください。原則として 2 行以内にしてください。舗装工学講演会では、長い原稿を分割して、その 1、その 2・・・とする連載形式も認めますが、土木学会論文集特集号（舗装工学）投稿時には認められませんので注意してください。また、用語の後ろに括弧書きを含むような表題については、委員会の判断で修正をお願いすることがあります。
- 2) 要旨は、目的と結論がわかるようなものとし、和文の原稿では和文を、英文の原稿は英文で簡潔にまとめ、所定の場所に付けてください。
- 3) 内容を十分に表すキーワードを英語で 5 個程度選んで所定の箇所に記入してください。
- 4) 筆頭著者と corresponding author は E-mail アドレスを記入してください。

5. 投稿原稿の審査と特集号への投稿

5.1 投稿原稿の審査

投稿原稿が、舗装工学講演会講演集に掲載されるにふさわしいものであるかどうかを判定するために舗装工学論文集編集小委員会にて審査します。

5.2 特集号への投稿

舗装工学講演会講演集に掲載された講演原稿は、土木学会論文集特集号（舗装工学）への投稿の権利を得ます。講演会での討議やその後の知見を加え、論文、報告あるいはノートとして適切な内容とした上で、外部査読員による査読の結果登載可と判定されたものについては、土木学会論文集特集号（舗装工学）へ掲載します。舗装工学講演会講演集と無関係の論文は土木学会論文集特集号（舗装工学）では受け付けいたしませんので、ご注意ください。

なお、土木学会論文集特集号（舗装工学）への投稿に際して、舗装工学講演会講演原稿からタイトルおよび著者の変更（順番を含む）は可能ですが、corresponding author の変更は認められません。

土木学会論文集特集号（舗装工学）への投稿についての詳細は別途、舗装工学論文集編集小委員会ホームページに掲載します。

6. 投稿原稿

投稿原稿は、PDF ファイル化した原稿で、所定の書式に従った完全なものを送付してください。舗装工学論文集編集小委員会はこの原稿を講演原稿としてオンライン上で公開します。

7. 原稿の書き方

7.1 記述言語

投稿原稿は、十分に推敲してください。記述言語の区分は和文か英文のいずれかに限ります。

7.2 ページ数

投稿原稿 1 編のページ数は、2～4 ページの範囲としてください。これらの範囲を超えた原稿は受け付けません。

7.3 著者数

著者の数に制限はありませんが、不必要に多くしないように配慮してください。

7.4 ページ設定

投稿原稿は A4 版とします。上辺マージンが 19mm，下方マージンが 24mm，左右マージンが 20mm とし、2 段組で段幅は 82mm とします（段の間隔は 6mm）。一段あたりの行数は、和文の場合は 48 行、英文の場合は 56 行を標準とします。一段あたりの文字数は、和文の場合は 25 文字を標準とします。

和文の場合、本文、著者名、所属、要旨、図表のキャプションは明朝体（英数字は半角で Roman 体）を用いるものとし、タイトル、章や節、項の見出し、「表-1」や「図-2」、「謝辞」、「付録」、「参考文献」の見出しはゴシック（英数字は Arial）を用いるものとします。句読点はカンマ「，」とピリオド「。」を用いてください。

英文の場合、本文、著者名、所属、要旨、図表のキャプションは Roman 体を用いるものとし、タイトル、章や節の見出し、「Table 1」や「Figure 2」、「ACKNOWLEDGMENT」、「APPENDIX」、「REFERENCES」の見出しは Roman の bold 体を用いるものとします。原稿の第 1 ページは次のような記述方法となります。

和文・英文原稿とも、最終ページに原稿受付年月日を記入しないでください。

タイトル：

10mm のスペースをとったうえで（上辺マージンと合計で上辺から 29mm の位置）、第 1 行目にタイトルを記載してください（センタリング）。和文の場合は、書体はゴシックで大きさは 20 ポイントとします。英文の場合は、書体は Roman の bold 体（すべて大文字）で大きさは 18 ポイントとします。

著者名：

タイトル行の下 15mm のスペースを確保して、著者名を記載してください。和文では、連名の場合は「・」で区切って並べ、書体は明朝体としてください。英文では、連名の場合は「，」で区切って並べますが、最終著者の前は「and」で繋いでください。書体は Roman 体（姓のみすべて大文字）としてください。文字の大きさは、和文、英文とも 12 ポイントとします。各著者名の右肩には所属を表すための番号を付してください。

所属等：

著者名に 5mm のスペースをあけて、土木学会の会員資格、勤務先、かつこ書きで郵便番号、住所を記載します。書体は、和文の場合は明朝体（英数字は半角で Roman 体）、英文の場合は Roman 体とします。著者名に付した番号と対応させてください。文字の大きさは 9 ポイントとします。なお、筆頭著者と corresponding author については、E-mail アドレスをそれらの下に必ず記入してください（Roman 体で文字の大きさは 9 ポイント）。

要旨：

所属等に 10mm のスペースをとって、要旨を記載します。和文の場合は、350 字以内とし、書体は明朝体（英数字は半角で Roman 体）で文字の大きさは 9 ポイントとします。英文の場合は、300 ワード以内とし、書体は Roman 体で文字の大きさは 10 ポイントとします。

キーワード：

Key Words という見出しは、要旨に 5mm のスペースをあけて、**bold-italic** 体で記載します。キーワードは 2 行以内とし、英語で 5 個程度選んで記入してください。書体は *italic* 体で文字の大きさは 10 ポイントとします。

以上のタイトル、著者名、所属等、要旨およびキーワードにおいては、1 段組とし本文よりもさらに左右 10mm のマージンを確保するものとします。

本文：

キーワードに 10mm のスペースをあけて、2 段組で記載します。和文の場合は、書体は明朝体（英数字は半角で Roman 体）で文字の大きさは 10 ポイントとします。英文の場合は、書体は Roman 体で文字の大きさは 11 ポイントとします。

7.5 文章および章・節・項

文章は口語体で基本的に「である調」で統一してください。特に英文もしくは片仮名書きを必要とする部分以外は、漢字まじりの平仮名書きとしてください。私的な表現、広告、宣伝に類する内容の記載はさけてください。

章、節、項の見出しの数字は左詰めで書き、次のように統一します。これら以外の見出しは用いないでください。章、節、項の数字はピリオドと括弧も含めて半角にしてください。書体は和文の場合、Arial、英文の場合は Roman の bold 体として、章の見出しは 11pt で、それ以外は 10pt としてください。

章・・・1., 2., 3., 節・・・(1), (2), (3), 項・・・a), b), c)

章、節、項の見出し語は、和文の場合、文字はゴシック、英数字は Arial、英文の場合は Roman の bold 体（すべて大文字）とし、章、節、項の見出し語についてはピリオド、括弧のあと全角あけて書くようにしてください。

章の見出しの次行は 1 行空けてください。章と章の間は 2 行、節と節の間は 1 行空けてください。また、謝辞や参考文献の前は 1 行空けてください。

7.6 式および記号

式や図に使われる文字、記号、単位記号などは、できるだけ常識的な記号を使い、必要に応じて記号の一覧表を付録として付けてください。数式はできるだけ簡単な形でまとめて、式の展開や誘導の部分を少なくして文章で補ってください。式を書く場合には、数式エディタを用い、本文中の記号も数式と同じものを使用してください（数式および本文中の記号（変数）は Roman の *italic* 体とします）。数式の記号が最初に現れる箇所に記号の定義を文章で表現して使ってください。また、同一記号を二つ以上の意味で使うことは避けてください。文字の大きさおよびは本文と同じにしてください。

7.7 単位系

単位は SI 単位を使用してください。このとき、分母に接頭辞を用いる単位は、できるだけ他の単位に置き換えてください。たとえば、圧力・応力の単位である N/mm^2 は MPa に、ラフネスの単位などに使用される m/km は mm/m にします。

7.8 図、表、写真

- (1) 本文が和文であっても、図、表、写真の表題および図中の文字は、英語を使用してもかまいません。
- (2) 図、表、写真は、それらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とし、そのページの上部か下部にまとめるようにレイアウトしてください。図、表、写真の横（余白）には本文は組込まないでください。

- (3) 図，写真についてはカラーも可能です。この場合，モノクロでプリントした場合でも内容が判別できるように注意してください。解像度の目安としては，モノクロ画像で 1200dpi，カラー／グレースケール画像で 300dpi を推奨します。あまり解像度を大きく設定しますと，著しくファイルサイズが大きくなりますのでご注意ください。
- (4) 図，表，写真を他の著作物から引用する場合は，出典を必ず明記するとともに，事前に原著者の了承を得てください。
- (5) 図の製図方法は，原則として「土木製図基準」（土木学会編）を参照してください。仕上がりを考えて線の太さや文字の大きさに注意してください。文字は，仕上がりで 1.5～2mm となるのが標準で，また，記号類は小さすぎないように少し大きめに描くようにしてください。

7.9 機種依存文字（環境依存文字）

原稿を電子ファイルで閲覧したときにいかなる閲覧環境においても正しく表示されるように，機種依存文字（環境依存文字）の使用は避けてください。

よく使用される機種依存文字の代表的な例は，以下のとおりです。

丸付き数字：①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩など半角カタカナ：アイウエカクケコ・・・など

全角のローマ数字：ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦⅧⅨⅩなど

括弧囲み文字：(株)(代)(有)など

複数の文字を全角 1 文字に集約した単位記号：mm cm km mg kg cc m²など全角の数式記号：≡ ≡ ∫

∫ Σ √ ⊥ ∠ ⊥ ∴ ∩ ∪ など

片仮名で書かれた全角の単位：ミリ キロ セン メー グラ トン ル アー ヘク リッ ワツ カロ ドル セン パー ミリ ペー

7.10 参考文献(REFERENCES)

登載可となった原稿は電子講演集として公開されます。

- (1) 参考にした文献は引用順に番号をつけて本文末にまとめて記載し，文中にはその番号を右肩上に示して文末の文献と対応させてください。複数の文献を引用する場合には，右肩上の番号は^{1,2)}ではなく^{1),2)}のように記載してください。なお，参考文献は，講演原稿登載後に時間が経過してもたどれるものだけを挙げてください。すなわち，インターネット上のウェブページアドレスや私信などを参考にした場合は，本文末の参考文献ではなく，後述する NOTES にて示してください。
- (2) 参考文献の書き方は，著者名，論文名，雑誌名(書名)，巻号，ページ，発行年月日の順に記入してください。発行の月日は省略して構いません。英文雑誌の場合は，姓，イニシャルとします。著者数が多くとも，参考文献リストには全ての著者名を記載してください。ただし，本文中で引用する場合には，3 名以上の場合に限り，第一著者のみを書き，あとを「ほか」もしくは「et al.」として省略してかまいません。

単行本の場合は，著者名，書名，発行所，ページ，発行年とします。英文の単行本の場合は，書名は各単語とも頭文字を大文字とします。雑誌名，書名は *italic* 体にしてください。詳細については下記の記入例，および既に発行されている土木学会論文集特集号（舗装工学），土木学会論文集を参考にしてください。

【REFERENCES の記入例】

- 1) 福田 正，松野三朗：道路工学，朝倉書店，pp.110-117，1987.
- 2) Maina, J. W., Yokota, H. and Matsui, K.: Effect of errors in layer thickness on backcalculated layer moduli, *Journal of Pavement Engineering*, Vol. 3, pp.49-56, 1998.
- 3) 小梁川雅，米谷 裕，福田 正：確率特性を考慮したコンクリート舗装版の曲げ疲労設計曲線，土木学会論文集，No.462，pp.151-157，1992.

7.11 NOTES

既往研究としての REFERENCES 以外に，根拠資料や史的研究の資料としての文献を示す場合には，REFERENCES とは別に引用箇所でのように^{注1)}上付き文字で指示し，NOTES として REFERENCES の前にリストを示してください。なお，NOTES には本文に対するその他の文末注も含めることができます。そのため NOTES の書式は，本文に補足すべき十分な情報を含めれば特に規定をしません。ただし，根拠資料や史的研究の資料としての文献以外の NOTES はできるだけ避け，本文中で説明をするか，もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いてください。

【NOTES の記入例】

注 1) 『大名田町々勢要覧』(大名田町, 1936) に掲載される《大名田町市街部之圖》。

注 2) 庭園協会『庭園』4 (3), p.31, 1922.3.

7.12 原稿の書式

投稿原稿の詳しい書き方は以上のとおりです。舗装工学論文集編集小委員会ウェブページに作成上の注意点を示しています。また、この作成例に記されていないことは「土木学会論文集投稿用原稿作成例」に従ってください。

8. 共同著者の責任と著作権

共同著作された講演原稿の著作権は、著作がなされた時点で氏名が掲げられた複数の著者に共有されることになります。このため、安易な著者名の表示変更（著者の順番、corresponding author の変更を含む）は認められません。したがって、投稿後に著者表示に関わる重大な変更があった場合には、講演原稿は取り下げの措置となります。

9. 著作権の帰属（譲渡）

講演集への掲載が決定した時点で、土木学会へ著作権を帰属（譲渡）していただきます。したがって、講演集に掲載された著作物の著作権（著作権法第 27 条、第 28 条に定める権利を含む）は土木学会に帰属（譲渡）することになります。

著作者自らが、著作物の全文、または一部を複製・翻訳・翻案などの形で利用する場合には、土木学会は原則として、その利用を妨げるものではありません。ただしインターネットのウェブページなどに全文を掲載する場合は、土木学会へ通知していただきます。

一方、土木学会が第三者から、著作物の全文または一部の複製利用（翻訳として利用する場合を含む）の申し込みを受けたときには、特に不適切とみなされる場合を除き、土木学会の判断でこれを許諾することとします。この場合、学会は著作者に著作物利用の概要を通知いたします。

10. その他

- (1) 個々の原稿について審査内容は公表しないととも、問合せに対しても一切応じません。投稿原稿の採否に関しては、corresponding author に通知します。
- (2) 講演集に掲載された原稿に対する掲載料は請求しません。講演会にてご発表いただく講演者には、参加費を下記の通り支払いいただきます。

一般（会員）	12,000 円
一般（非会員）	15,000 円
学生（会員・非会員； 社会人含む・要学生証）	3,000 円

以上